（別紙様式4）

令和8年11月6日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
大阪アミューズメントメディア専門学校	平成28年4月1日	森 憲司	〒　532－0011 （住所）　大阪府大阪市淀川区西中島3丁目12番19号 （電話）　06－6885－6010
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人吉田学園	平成28年2月2日	吉田 東吾	〒　532－0011 （住所）　大阪府大阪市淀川区西中島3丁目12番19号 （電話）　06－6885－6010

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	文化・教養専門課程	声優学科	平成29(2017)年度	－	令和 6(2024)年度

学科又は専攻科の目的	「産学共同・現場実践教育」の教育理念に基く学生育成により、声優業界で即戦力として活躍できる人材を輩出する。
学科又は専攻科の特徴(取得可能な資格、中退率　等)	インターンシップや公演などの実践的教育に力点を置き、声優業界で即戦力として活躍できる技能と知識を習得する。

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	62　単位	21 単位	32 単位	9 単位	0 単位	0 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数(学生実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率
300 人	229 人	2 人	1 %	9 %

就職等の状況

■卒業者数 ©	108	人
■就職希望者数 (D)	107	人
■就職者数 €	51	人
■地元就職者数 (F)	6	人
■就職率 (E/D)	48	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	12	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	47	%
■進学者数	0	人

■その他

声優養成所:50名 アルバイト:6名　その他:1名

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

ソニー・ミュージックアーティスツ、賢プロダクション、スターダストプロモーション など

当該学科又は専攻科のホームページURL	https://www.amg.ac.jp/voice/

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

総単位数	62 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	0 単位
うち企業等と連携した演習の単位数	4 単位
うち必修単位数	62 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	0 単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	4 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	0 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	0 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	4 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	2 人
計		6 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	1 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

○教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和7年9月4日　17:30～19:00/第2回　令和7年12月4日　17:30～19:00
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年11月6日現在

名　前	所　　属	任期	種別
香川悟	一般社団法人デジタルエンターテインメントクリエイター協会　理事	令和7年3月1日～ 令和9年3月31日まで（2年）	①
生島久也	一般社団法人マナベル	令和7年3月1日～ 令和9年3月31日まで（2年）	①
島田健人	株式会社クロスプラススタジオ　開発部 部長	令和7年3月1日～ 令和9年3月31日まで（2年）	③
高橋沙紀	株式会社亀　3Dデザイナー	令和7年3月1日～ 令和9年3月31日まで（2年）	③
時本伸一	株式会社BURG　映像制作部 総括主任	令和7年3月1日～ 令和9年3月31日まで（2年）	③
中野裕紀	株式会社EMTスクエアード　作画部 部長	令和7年3月1日～ 令和9年3月31日まで（2年）	③
武山紀彌	有限会社メルヘンズ　取締役社長	令和7年3月1日～ 令和9年3月31日まで（2年）	③
松田昌子	株式会社テラーノベル パブリッシング事業部　マネージャー	令和7年3月1日～ 令和9年3月31日まで（2年）	③
北川隆一	劇団しし座　代表／関西俳優協議会 顧問	令和7年3月1日～ 令和9年3月31日まで（2年）	③
内海賢太郎	株式会社賢プロダクション　代表取締役	令和7年3月1日～ 令和9年3月31日まで（2年）	③
森憲司	大阪アミューズメントメディア専門学校　学校長	令和7年3月1日～ 令和9年3月31日まで（2年）	ー
中島正貴	大阪アミューズメントメディア専門学校　教務部長	令和7年3月1日～ 令和9年3月31日まで（2年）	ー
脇功一	大阪アミューズメントメディア専門学校　教務副部長	令和7年3月1日～ 令和9年3月31日まで（2年）	ー

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「ー」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
感情開放	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	喜怒哀楽の感情を開放し自分らしい表現を見つけ、演じる楽しさを体感する。	株式会社エイティワンプロデュース
アニメアフレコ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	マイクワークなど収録現場で必要な技術を習得する。合わせてセリフの根拠となる背景や声の使い方を研究し、個性的な表現へと結び付	株式会社エイティワンプロデュース
アニメアフレコ特講	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	アニメアフレコにおける基礎の復習と、キャラクターの心情に声色をシンクロさせ表現に落とし込む、実践応用を行う。	株式会社 賢プロダクション

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学校法人吉田学園教員研修規程第1条に定める通り、企業等と連携して、専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能並びに、指導力等の修得・向上を目的とし、専攻分野における実務について研修を行うことで、最新の業界の事情やニーズを把握し、教育に反映させる。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	「声優業界が専門学校の教育に求めるものは何か 」	連携企業等：	株式会社ポニーキャニオン
期間：	令和7年8月4日	対象：	専任教員
内容	「声優業界が専門学校の教育に求めるものは何か」を中心テーマとして、職員から講師への一問一答形式による研修を実施。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	「ハラスメントの防止 ～感性をブラッシュアップしよう～」	連携企業等：	大阪府人権擁護士 梶山武志氏
期間：	令和7年5月9日	対象：	全教職員
内容	アクティビティを通じてハラスメントに対する参加者各自の価値観を整理し、ケースに登場する行為者の「思い込み」について考察する。グループワークを通じて、全体で意見を共有することにより、多様な捉え方や価値観の相互理解を図る。各ケースの解説と振り返りを行い、ハラスメント防止に向けた学びの定着を目指す。		

研修名：	「在校生の意識の実態と課題の対応について」	連携企業等：	梶山武志 氏（大阪府人権擁護士）
期間：	令和8年1月27日	対象：	全教職員
内容	保健衛生課の活動を通じて明らかになった、本校の在校生が示す志向性や特性に起因する課題について、専門家からの助言および適切な対応方法についての指導を行う。本研修で修得したノウハウを学生指導に取り入れることで、学生の学習意欲の向上を図り、学生の中退防止へと繋げていく。		

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	「学生のセルフプロデュース力向上及びSNS・情報リテラシー指導のための研修」	連携企業等：	ジャパントータルエンターテインメント株式会社
期間：	令和8年8月7日	対象：	専任教員
内容	近年の声優に必要とされるセルフプロデュース力の向上と、セルフプロモートに不可欠となっているSNSでの発信に関する情報リテラシーについて学ぶ。これに関する知識を習得し理解を深め、学生一人一人の志向や業界ニーズに沿った適正な指導に繋げていく。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	「本校の学生理解と人権について」	連携企業等：	梶山武志 氏（大阪府人権擁護士）
期間：	令和8年8月25日	対象：	全教職員
内容	保健衛生課の活動の一環である「学生生活向上委員会」、或は学生相談室の学生との個別面談を通し見えてきた本校学生の傾向を理解し、合わせて人権とは何かを改めて認識することで、多様化する学生の指導・支援の向上に活かしていく。		
研修名：	分野毎の学生の特性に沿った生活指導力向上のための研修	連携企業等：	梶山武志 氏（大阪府人権擁護士）
期間：	令和8年11月9日～12月3日の内、3日間	対象：	全教職員
内容	担当する分野毎に教職員をグループ分けし、各学生の適性に合わせた指導方法について学ぶ。		

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

○学校関係者評価

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
（1）教育理念・目的・目標	
1　教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
（2）学校運営	
1　教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2　教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3　単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4　学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている

(3)学生の受入れ、学生支援	
1　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2　自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
4　学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。 ※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている
(4)教育実施組織・教員	
1　教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
(5)教育環境	
1　教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている

(6)教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1　中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2　学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)。	同内容評価項目を設けている
3　学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4　社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている

(3)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年11月6日現在

名　前	所　　属	任期	種別
赤松加枝子	株式会社ラジオ大阪 編成部　担当部長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	企業等委員
藤井美樹	株式会社ヒューリアート　管理本部	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
山光咲良	ケンユウオフィス養成所(TALK BACK)	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	卒業生
辻井安喜	学校法人 浪工学園 星翔高等学校 常務理事・校長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	高校関係
益満俊彦	株式会社共立メンテナンス 寮事業本部 関西支店 支店長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	地域住民
小林俊一	株式会社アミューズメントメディア総合学院 AMG出版 出版プロデューサー	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
鶴圭太	ジャパントータルエンターテインメント株式会社 取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
東谷 匠	株式会社クロスプラススタジオ	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	企業等委員
三澤 静香	株式会社GoHands　企画管理課 課長／制作事務	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://www.amg.ac.jp/syllabus/		
公表時期	令和8年6月30日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://www.amg.ac.jp/school-infomattion/		
公表時期	令和8年6月30日		

授業科目等の概要

	（文化・教養専門課程 声優学科）															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			アフレコ基礎	台本の読解からマイクワークまで、アフレコ収録の基本を学ぶ。合わせて作品内での自分の役割を果たし、チームで作品をつくりあげる。	1・通	2		○		○			○	
2	○			ヴォーカルⅠ	声優アーティストとしての歌唱技術を習得する。歌唱に対するモチベーションを高め、パフォーマンス力を習得する。	1・通	2		○		○			○	
3	○			ダンスⅠ	声優・役者に必要な身体作りの基本を習得する。姿勢や体幹を鍛え基礎体力もつける。	1・通	2		○		○			○	
4	○			ナレーション基礎	発表、発言で経験値をあげ、音声・映像を記録してそれを見ることで意識の向上。	1・通	4	○			○			○	
5	○			舞台基礎	言葉と身体を融合させた表現を台本を通して学んでいく。	1・通	1		○		○			○	
6	○			読解基礎	様々なジャンルのテキストへのアプローチを通して、情感・体感を踏まえた表現を探る。自分の武器である声・感覚に目を向け、活きた表現を目指す。	1・通	4	○			○			○	
7	○			発声基礎	有益な発声法とそれぞれを支える効果的な呼吸法を学ぶ。	1・通	2		○		○			○	
8	○			表現基礎	自分の声を知り、声優に必要な声の要素を作っていく。	1・通	1	○			○			○	
9	○			美語話法	共通語の習得、及びそれに付随する基礎事項を学習する。合わせてアナウンスメントにおける基礎知識の習得も行っていく。	1・通	4	○			○			○	
10	○			演技基礎	発声・ことは・身体表現を、台本を通し習得していく。	1・通	1		○		○			○	
11	○			感情開放	喜怒哀楽の自己解放訓練を通し、チームでも個人でも自分らしい表現を見つけて、演技の基礎力をつける。	1・通	1		○		○				○
12	○			感情表現	台本を読み解き、自分の感情を役を通して伝える。	1・通	1		○		○			○	
13	○			ラジオ・フリートーク基礎	ラジオの制作実習を通してフリートーク力や臨機応変さを身につける。	1・通	2		○		○			○	

14	○			総合演習	声優としての基礎から応用までを総ざらいする。	1・通	3		○		○		○		
15	○			朗読制作	１年生中間発表	1・通	1			○	○			○	
16	○			舞台制作	一年間の集大成の舞台発表。	1・通	2			○	○			○	
17	○			アニメアフレコ	アニメ作品に声をあて、セリフの根拠となる裏付けの取り方、キャラクター表現を身につけ、自分らしい表現へと結び付けていく。	2・通	2		○		○				○
18	○			外画アフレコ	外国映画作品に声をあて、セリフの根拠となる裏付けの取り方・台本の読み解き・話す技術を身につけ表現へと結び付けていく。	2・通	2		○		○			○	
19	○			ヴォーカルⅡ	しっかりした発声と正確なピッチでの歌唱基礎を鍛え、さらに感情を乗せた歌唱が出来るよう繰り返しトレーニングを積んでいく。	2・通	2		○		○			○	
20	○			ダンスⅡ	ダンスに必要な身体作りを行い、音楽に合わせた肉体表現の楽しさを学んでいく。テーマに沿った振り付けへの対応力を身につける。	2・通	2		○		○			○	
21	○			演技応用	役者の観点・演出家の観点から演技を捉え、基礎演技を固め、表現力を身につける。	2・通	2		○		○			○	
22	○			ナレーション演習	TV・ラジオ番組、CMナレーション等、「声優」としてプロの現場に対応出来るナレーション技術を身につける。	2・通	4	○			○			○	
23	○			読解応用	台本を読み解き芝居を構成する力を身につける。	2・通	2	○			○		○		
24	○			総合実習	各講義への目標設定、管理を行うことで自律できる人間になる。	2・通	4			○	○		○		
25	○			卒業制作発表	アフレコライヴの発表、裏方準備、作業までを制作の一環として行い、制作発表の成 功に繋げる 表現力、想像力、協調性、団結力を養う。	2・通	2			○	○			○	
26	○			進路対策	プロダクション直接所属にむけた事務所ガイダンスの実施や、オーディション合格に向けた日々の取組み方を指導する。模擬オーディションも実施。	2・通	2	○			○		○		
27	○			舞台応用	舞台上の演技として、立ち方、表情、目線、全てにおいて観客を意識し、実演を通して演技力、協調性を身につける。	2・通	1		○		○			○	
28	○			アニメアフレコ特講	アニメ作品に声をあて、セリフの根拠となる裏付けの取り方・キャラクター表現を学び、自分らしい、オリジナルの表現を探求していく。	2・通	1		○		○				○
29	○			外画アフレコ特講	外国映画作品に声をあて、正確な台本の読解による繊細な表現を探求し、自分らしい演技を追及していく。	2・通	1		○		○			○	

30	○			ヴォーカル特講	オーディションに通用する歌唱力・パフォーマンス力を磨き、1曲を仕上げていく。	2・通	1		○		○			○	
31	○			ダンス特講	曲のテーマに沿った振り付けを、感情豊かに表現することを目指す。オーディションや仕事で魅せられるダンスを目指す。	2・通	1		○		○			○	
合計					31 科目 62 単位											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	卒業該当学年の学年末に卒業認定会議を開催し、62単位以上の取得が認められたものを対象に、学校長が卒業を認定する。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	１年次：全科目必修（31単位） ２年次：全科目必修（31単位） 合計62単位が卒業に必要	１学期の授業期間	17 週